

しば子先生の

ミ

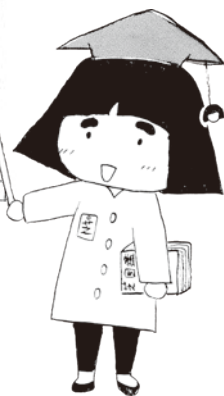
ニ

ミ

ニ

芝生教室

第118回 カタビラ5



先生：さて今回は『マックワンフロアブル』の上手な使い方を説明しましょう・・・

生徒：安全性と効果は 20 年間の実績が証明していますがベストな使用方法を是非教えてください・・・

先生：そうね・・・まず撒き方から説明しましょう・・・前回も説明したとおり『マックワンフロアブル』はとても水溶性が低いのが特徴ね・・・そのために土壤に十分な処理層を作るためには**散布水量や後散水**が重要なよ・・・

生徒：なるほど・・・有効成分が水に溶けていないので芝生やサッチに引っかかってしまって土壤までなかなか到達できないのですね・・・

先生：そのとおりよ！・・・20 年前なら手振りで 1 リッター散布を推奨していたのだけど、最近では 100cc とか 200cc 散布あたりが多いので、**散布直後に十分に後散水**することが重要ね・・・散布水が乾く前に後散水することが重要よ・・・

生徒：そうか一回乾くと芝生に付着するんですね・・・

先生：そうなの・・・葉やサッチに引っかかった有効成分は無駄になってしまうから**水が溜まらない程度に十分散布**してね・・・

生徒：よくわかりました・・・撒くタイミングはどうでしょうか？・・・春秋の年二回ですよね・・・

先生：基本的に「発芽前処理剤」だから、カタビラが**土壤中で発芽する前に散布**することが重要ね・・・でも実際土壤中の発芽は目には見えないからそこが問題ね・・・

生徒：確かに見えませんね・・・

先生：通常土壤温度が 15 ～ 20℃ぐらいが発芽の条件だから土壤温度を計ってその直前で撒くのが理にかなっているわ・・・外気温で考えるなら日平均気温が春に 10℃超えたら、秋なら 25℃以下ぐらいになったら撒くのがいいのではないかしら・・・

生徒：なるほど・・・すでに出ている多年草カタビラの多い場合はどうでしょう・・・

先生：そうね・・・新規の発芽を止める通常の撒き方でも徐々に多年草のカタビラは根を減らして小さくなっていくけど、早めに効果を出したければ寒さや暑さでカタビラが苦しくなる直前に撒くのも一つの選択ね・・・

生徒：なるほど！・・・マックワンだけでは出ているカタビラをすぐには殺せないけどマックワンで毛根を失わせてその後に乾燥や土壤凍結などのストレスでとどめを刺すんですね・・・

先生：そういうことね・・・しかも残効が長いので、そのストレス期間の後にもまだ残効があれば暑さや寒さのストレス期間後に再生しようとしても根を復活させられないのでそのまま消えていくわ・・・

生徒：素晴らしい効果ですね・・・

先生：冷涼な寒地型芝エリアの夏でもカタビラが元気な多年草カタビラ地域と暖地芝型エリアで大半が夏には消える一年草が多いエリアで散布方法が変わると考えた方がいいわね・・・

生徒：なるほど・・・気候条件とカタビラの種類が鍵なんですね・・・

先生：そういうことね・・・あとマックワンを撒くときは施肥量を十分にすることね・・・肥料が効いていないとカタビラも成分を吸収しないので効果が出にくいし、カタビラが小さくなってきた時にベントグラスがそこに広がっていくようにするために肥料が多い方がいいわ・・・

生徒：なるほど・・・

先生：それからこれは重要なことだけど、ベントグラスの根が 3cm より浅くなっているときは散布を控えた方がいいわ・・・もちろんベントが枯死するわけではないけど若干成長が緩慢になってしまうわ・・・

生徒：でもベントの根が 3cm より短いと言うことは相当ベントグラスが弱っていると言うことですよ・・・

先生：その通りね・・・普通なら 5cm 以上あるはずだわ・・・夏の暑さや冬の凍害でベントグラスがダメージを受けたりした後の散布は要注意ね・・・そうならないように春や秋の生育期に十分な養分を蓄えさせられるように管理することが重要だね・・・

生徒：やはり施肥管理、土壤の管理をきちんとやってベントの健全性を維持させないといけないと言うことですね・・・

先生：そうよ・・・肥料が少ないとベントよりカタビラの方が元気になっちゃうから根本的に正しい管理計画を立てた上で農薬を使うことが重要ね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》

